



南方熊楠の林中裸像>森林伐採に反対するために撮影された写真。寒中の1月に裸で撮影されたのは、彼なりの強烈なパフォーマンスであったといわれている。(西牟婁郡上富田町で撮影)  
写真:南方熊楠顕彰館(田辺市)

日本の原風景をシンボリックにささえる、鎮守の森。明治以前は集落ごとに大小さまざまな神社があり、それぞれに鎮守の森があった。みだりには入れないが、必要な手入れは地域住民が行う。それがコミュニティを健全に保ってきたという側面もあった。しかし明治の神社合祀令により、古来から存在する神聖な森は、大打撃を受けることとなる。

それに敢然と立ち向かったのが南方熊楠だ。熊楠にとって植物や変形菌(粘菌)を研究するフィールドが破壊されることは、堪え難いことであつたに違いない。しかし熊楠の思いはそんな単純なものではなかった。人々の寄合の場である神社が取り壊されることで宗教心が衰え、連帯感が薄れコミュニティが崩壊する。森の消滅で鳥たちは棲息する場を失い、天敵を失った害虫が

殖え、農産物に害を与え、農家は生きていけないくなる。こうした神社合祀による複雑な負の連鎖を、自然破壊だけに留まらず人間を含めた生態系の危機としてとらえていた。現代ではエコロジーと呼ばれるこういった概念を、「エコロジー」として100年以上前に日本ではじめて説いたのも熊楠である。顕微鏡を通して見つめる変形菌などのミクロな世界。そしてその向こうにある生態系というマクロな世界を憂える。熊楠の卓越したその思考に改めて驚かされる。

熊野古道沿いの巨木、老木や中辺路にある野中の一方杉、生物学上珍しい植物が繁茂する田辺湾の神島など、熊楠によって守られた和歌山の自然は多い。そこには熊楠の思いと共に貴重な動植物が今もいきいきと生きている。そこは、地域で暮らす人々の、心の拠り所でもある。



熊楠の業績を伝える記念館没後、遺族から資料の寄贈を受け、熊楠の偉大な業績と文献、標本類等を保存し、公開している記念館。生誕150年を記念しリニューアルオープンした。(P19参照)

南方熊楠記念館  
住所/西牟婁郡白浜町3601-1  
電話/0739-42-2872



# 日本ではじめて エコロジーを唱えた熊楠が 守り通したモノとは

神島(かしま)>昭和4年、昭和天皇が変形菌採集をし、その後御召艦で熊楠が御前講義をおこなった。国の天然記念物で上陸不可。



野中の一方杉>熊野古道継根王子社の境内にある杉の巨木。全ての枝が那智山の方角を指しているご神木。